渡辺（帯柏葉）道高校新

男子八種競技

高体連 十勝支部予選

陸上

（1日・帯広の森陸上競技場）

第2日は15種目の決勝などを行った。男子八種競技で渡辺聖人（帯柏葉3年）が道高校新で、昨年の日本高校記録14位に相当する5206点をマークし初優勝を飾った。同走り高跳びは小西康道（白樺学園2年）が2㍍01、女子円盤投げは桑井亜乃（帯農3年）が39㍍63でそれぞれ2連覇。同4×百㍍リレーは帯南商（小林佑夏、五十嵐友、藤井瞳、中川誌穂子）が50秒19で制した＝2位以下の記録は後日掲載。

（中津川甫）

男子走り高跳び 小西 女子円盤投げ 桑井が連覇

（1位のみ）

【男子】◇百㍍＝①伊藤類圭（白樺学園）11秒29◇八百㍍＝①畠山葵（帯柏葉）1分57秒59◇五千㍍＝①佐藤正紹（白樺学園）15分55秒21◇四百㍍障害＝①佐々木康尊（白樺学園）55秒19◇**走り高跳び**＝①小西康道（白樺学園）2㍍01◇**円盤投げ**＝①犬伏拓巳（帯農）48㍍87◇**ハンマー投げ**＝①谷川和樹（帯農）50㍍81◇**八種競技**＝①渡辺聖人（帯柏葉）5206点

【女子】◇**百㍍**＝①五十嵐友（帯南商）12秒85◇**八百㍍**＝①匂坂仁美（帯南商）2分28秒72◇**四百㍍障害**＝①西田伊織（帯農）68秒29◇**三千㍍競歩**＝①小池萌水（帯柏葉）21分40秒53◇**4×百㍍リレー**＝①帯南商（小林佑夏、五十嵐友、藤井瞳、中川誌穂子）50秒19◇**円盤投げ**＝①桑井亜乃（帯農）39㍍63

唯一2㍍超える大ジャンプ

○…男子走り高跳びは、走り幅跳びで大会新を樹立した小西康道（白樺学園2年）が唯一2㍍を超える大ジャンプで制し、自己ベストも更新。「前日の疲れもなく調子はいい」と笑みがこぼれた。

ただ2㍍01までは1回で成功したが、2㍍04では3試技とも失敗。それでも「そんなに高く感じなかったし、跳べると思った」と手応えはある。

昨年は全道5位だったが、今季は目標の2㍍10突破で上位入賞を狙う。「走り幅跳びと三段跳びを合わせて、3種目で勝負したい」と力を込めた。

【男子八種競技】最終種目の千五百㍍で疾走する渡辺聖人（帯柏葉３年）。道高校新の5206点で初優勝を飾った

【男子走り高跳び】２㍍01の自己新で２連覇した小西康道（白樺学園２年）

【女子円盤投げ】39㍍63で2連覇を果たした桑井亜乃（帯農3年）

初の5000点超え 6種目で自己新

渡辺 最後の年に才能開花

男子八種競技は、5月中旬のサーキット第2戦で好記録を出して注目を集めた渡辺聖人（帯柏葉3年）が初めて5000点を突破し、十勝高校記録（4955点）のみならず、周囲の予想を超えて道高校記録（5177点）まで塗り替えた。「狙っていなかったので本当にびっくりです」と本人も目を丸くした。

八種競技は2日間にわたって行い、トラック種目が百㍍、四百㍍、千五百㍍、百十㍍障害、フィールド種目が走り幅跳び、砲丸投げ（昨年から新規格6・0㌔）、やり投げ、走り高跳びで構成。渡辺はもともと短距離を得意としてきたが、高校1年時に「高体連の得点稼ぎで先輩に誘われたのがきっかけ」となり競技を始めた。

単独の種目ではずば抜けた成績がなかったことから帯三中時代、高校入学後も脚光を浴びることはなかった。だが堅実に競技を続けたことが実を結び、高校最後の年に才能を開花させた。今回は百㍍とやり投げ以外の6種目で自己ベストを更新。苦手の砲丸投げも10㍍に迫るまで克服した。

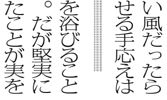
「目標は全道優勝。次は5400点ぐらいいきたいですね」と渡辺。遅咲きだったが、十勝に期待の逸材がまた1人加わった。

徐々に直すだけ

女子円盤投げを39㍍63で2連覇した桑井亜乃（帯農3年）の話 昨年のインターハイ予選通過記録の39㍍50は超えているので、あとは徐々に悪いところを直すだけ。全道で43―45㍍を投げていい感覚でインターハイに入っていきたい。

追い風なら10秒台

男子百㍍決勝を11秒29で制した伊藤類圭（白樺学園1年）の話 （向かい風2・4㍍の悪条件だったが）追い風だったら10秒台を出せる手応えはあった。勝ちたいという気持ちが優勝につながったと思う。この思いをどんな大会でも持てるようにしたい。



自己新にあと一歩

男子四百㍍障害を55秒19で制した佐々木康尊（白樺学園3年）の話 自己ベストの55秒16まであと一歩だったが、自信はついた。昨年は全道大会で優勝したので、今年は連覇を目指して頑張りたい。

1年生アンカー きっちり務める

○…女子4×百㍍リレーを制した帯南商（小林佑夏、五十嵐友、藤井瞳、中川誌穂子）は、昨年の主力だった中島悠貴（3年）が肉離れによる戦線離脱で空いた穴を1年生のアンカー・中川がきっちりと埋めた。

50秒台突破は果たせなかったが、「この4人ではベストタイムだったのでうれしい」と声をそろえて喜ぶ。2走・五十嵐（3年）は「バトンの受け渡しも完ぺき」と満面の笑み。4人とも全道大会では「48秒台を出して上位入賞を狙い、全道一の恵庭北と勝負したい」と意気込んでいた。

【女子4×百㍍リレー】帯南商の3走・藤井瞳（2年、右）からバトンを受け取るアンカー・中川誌穂子（1年、左）

帯柏葉 帯三条破りV

終盤に逆転、1点差で

【男子決勝】終盤の劇的な逆転で勝利を飾り、抱き合って喜びを爆発させる帯柏葉の選手たち

女子は帯三条が圧勝

ハンドボール

（1日・サンドームおとふけ）

男女とも帯柏葉と帯三条の2校が出場。1点を争う好ゲームとなった男子は、帯柏葉が4点ビハインドで迎えた終盤に帯三条を逆転、25―24で接戦に勝利して8年ぶり7度目の優勝を飾った。帯柏葉の左45・武智真志（3年）は11得点を挙げる活躍を見せた。女子は帯三条が終始圧倒、田中美佐主将（3年）の9得点などで22―8と帯柏葉に快勝した。男女の優勝校は11―13日に旭川市総合体育館で行われる全道大会に進出する。

（古川雄介）

【男子】◇決勝

帯柏葉 25（13―14、12―10）24 帯三条

【女子】◇決勝

帯三条 22（11―6、11―2）8 帯柏葉

目指すは全道で 札幌勢撃破

○…女子は帯三条がエース・田中美佐主将（3年）の9得点を筆頭に、先発メンバー全員が得点を挙げて快勝。危なげない内容も「パスミス、キャッチミスが多い」（田中主将）と厳しく自己評価。目指すは全道大会での札幌勢撃破だ。

田中美佐主将

5月に札幌遠征に出掛け、札幌月寒、札幌丘珠など強豪校と練習試合をこなした。力の差も味わったが「一生懸命さがあるし、力を合わせて頑張れる」（三好史弘監督）と結束力がアップ。この試合も得点源の田中にマークが集まったが、周りも動いてサポートした。

「ディフェンスでもチェンジをしっかりして、連係を高めていく。全道の決勝で月寒と戦いたい」と燃える田中主将。男子部が目の前で敗れて全道を逃しただけに、帯三条の看板を背負って全力を出し切るつもりだ。

【女子決勝】ディフェンスをかいくぐりジャンプシュートを決める帯三条の⑥根井麻記子（３年）

気持ちで負けた

帯三条・杉本匠主将（3年）の話 緊張して浮足立ったところがあり、気持ちで負けた。後半差をつけた時にスキを見せてしまい、勝ち切れなかった。競ったゲームだったので負けた気はしないが、力は出し切ったので悔いはない。

帯柏葉男子

8年ぶり勝利 喜び爆発

新監督の指導で気力強く

追いかけては突き放される繰り返しに、何度も途切れそうになった流れを、コート上のメンバー、ベンチ、応戦席も一体になってつなぎとめた。長らく苦杯をなめてきた帯三条との〝一騎打ち〟に8年ぶりに勝利。帯柏葉の外山佳裕主将（3年）は「最後まで気持ちを1つに、集中力を切らさずに行けた」と喜びをかみ締めた。

外山佳裕主将

武智真志

国士舘大ハンドボール部出身で元国体成年道代表の小野寺明彦監督(42)が今春就任。選手たちにたたき込んだのは走り勝つことと気持ちの大切さだ。練習は土・日曜以外は平日週3回、ハーフコートでの1時間半と十分ではないが、走り込みと勝利への執着心を磨き、今季は帯三条に2勝1敗と勝ち越して夏季大会を迎えた。

12―10と2点リードで折り返したが、後半すぐに逆転を許してからは追う展開に。19―23と4点差まで離されたが、相手選手の退場をきっかけに流れを引き寄せた。物静かな小野寺監督も「気持ちをしっかり持て！」と檄（げき）を飛ばし、終盤の連続得点で逆転。

「差がついてもあきらめずにプレーした。勝ちたいという思いが強かった」（小野寺監督）。

高い身体能力を生かしたジャンプシュートで11得点と爆発した左45・武智真志（3年）は「体力的にはきつかったが気力でつないだ。根性ですね」と笑顔がはじけた。1年生までサッカー部に所属していたが右ひざの半月板を負傷、ひざに負担がかかるサッカーからハンドボールに転向した苦労人がポイントゲッターとしてチームを引っ張る。

現メンバーにとってはもちろん初めての全道大会だが、出場だけで満足する気はない。外山主将は「相手に惑わされず自分たちの流れをつくる。悔いの残らないよう3年間やってきたことをすべて出し切りたい」と気持ちを引き締めていた。

8年ぶり７度目の優勝を飾った男子の帯柏葉

女子優勝の帯三条

丸山杯野球

勝興寺VS年中野球

あす平和球場で決勝

軟式野球の第2回丸山杯兼第36回支部長杯大会（道軟式野球連盟帯広支部主催）は2日午前5時から、十勝川河川敷球場で準決勝を行った。年中野球は初回から得点を奪って主導権を握り、五回コールドの8―0で中札内野球クラブに快勝。勝興寺は初回に先制を許したものの、六回に逆転し、2―1でJAおとふけを破った。最終日の3日は午前5時半から帯広の森平和球場で決勝、同5時から伏古別球場で3位決定戦を行う。

（中津川甫）

◇準決勝

☆十勝川B球場

JAおとふけ	100000	1
勝興寺	000002×	2

（六回時間切れ）

【J】野地―山本

【勝】小林、中村―今野

▽二塁打＝小林2（勝）

▽審判＝高松、高岩、清水慶

☆十勝川C球場

中札内野球クラブ	00000	0
年中野球	30041×	8

（五回コールド）

【中】阿部―河瀬、馬場

【年】杉本―坂本

▽二塁打＝舘内、杉本（年）

▽審判＝大津、白木、江原

両監督 かく戦う

このまま打てれば

勝興寺・佐伯隆則監督(53)の話 初の決勝進出なので、このまま優勝まで持っていきたい。準決勝では最終回の打線がよかった。明日もこのまま打てればいい。うちの選手は25―28歳までの帯農高OBなのでチームワークはばっちり。守備も問題はない。確実に打ってくれれば負けないだろう。

気持ちが大事

年中野球・樽見豊監督(38)の話 調整が遅れているが、試合ごとに選手たちの力は出てきている。決勝は打てないと勝てないだろう。守りは捕手の坂本公男(29)を要に細かいエラーを出さないようにしなければいけない。連日寒さと睡眠不足の戦いだが、みんなの勝ちたいという気持ちが大事になる。